

1年次の美術の授業風景 — 色相環の作成 —

今号では、**1年次(中1)の美術科**の授業を紹介します。下の枠内の文章と写真は、「**1年A組学級通信**」(村越先生作成)からの提供です。美術の担当は、大下先生です。

美術の授業では、アクリルガッシュを使って**色彩の授業**を行いました。**色の三原色**を学習し、実際に**色の塗り分け**や**明度や彩度**を表現しました。三原色を使って表現することにてこずったり、水で薄めすぎて乾くのを待っていたり、全部混ぜて黒くなってしまった人もいたりとさまざまでした。小学校で使用していた水彩絵の具と違い、**アクリルガッシュ**は乾いてしまうとかなり落ちにくくなります。まずは衣類につかないようにすること、付いてしまったらすぐにその部分を台所用洗剤などで洗うことが大事です。乾いてしまったものは、クレンジングオイルなどが有効です。

今回の授業では、**色相環(しきそうかん)**を扱っていました。色の勉強は、**AAL(アート・アクティブ・ラーニング)**にとっても重要なので、私から少し解説をします。

虹の色は、**赤→橙→黄→緑→青→藍→紫**の7色です。「**せい・とう・おう・りょく・せい・らん・し**」と覚えると覚えやすいです。色を順番に、リング状にならべたものを色相環と言います。色相環には12等分・24等分など色々な種類があります。

黄色を中心に考えると、黄色から距離が近い色相は「黄緑」や「オレンジ」であり、逆に遠い色相は「青紫」です。黄色と最も離れている色相は「青紫」です。このように**色相環の反対側に位置する二色を「補色(ほしょく)」**と言います。赤の補色は緑、青の補色はオレンジです。補色は色相差が最も大きいので、**お互いの色を目立たせる効果**があります。**赤ー緑、青ーオレンジ**などの補色の配色は非常に目立ちます。たとえば、セブンイレブンの看板は、赤ー緑の配色になっていますね。

この「色相環」の仕組みを知ることによって、色々な配色が出来ます。生徒の皆さん、「**かえで祭**」の装飾やポスターに「**補色**」を上手に使うチャレンジをしてみてください。教室に大きな「色相環」を貼っておくのもいいと思います。これも**AAL**です(^_^)!

